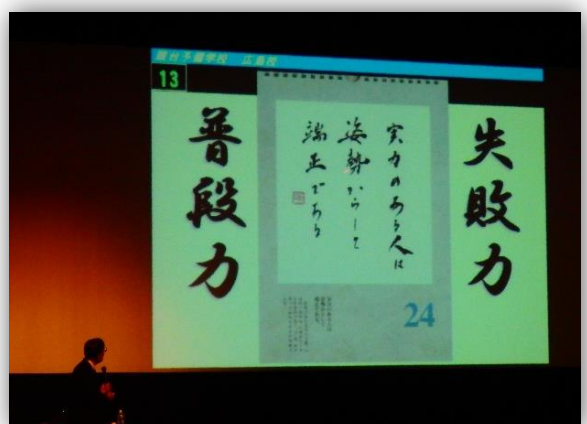
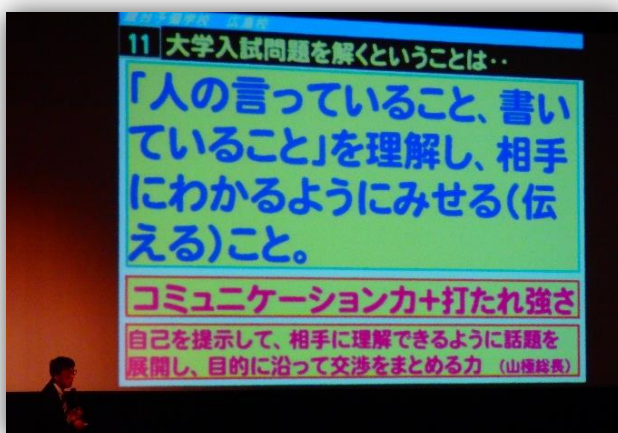
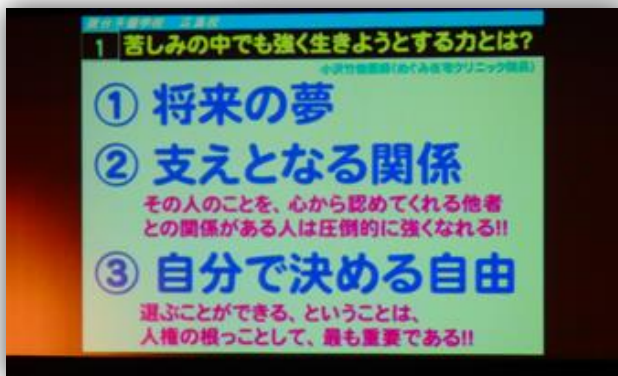


1 学年 進路講演会 10月6日

10月になり、1年の後半に入った10月6日7限、駿台予備学校広島校校舎長である豊田基行先生に、「大学入試の現状と現役合格を目指して～折れない力 諦めない力 伸びる力～」というテーマでご講演をいただきました。

豊田先生の豊富な経験に基づいた具体的で示唆に富むお話に、多くの生徒がメモを取りながら真剣に聴き入り、意欲を喚起されました。ありがとうございました。



(感想 抄録)

- ・講演会の冒頭の「最後は量」という言葉が印象に残った。
- ・講師の先生の言葉がすごく重く受け止められた。「夢、周りの支え、自分で決める …つまるころはこれ」と言われ、何度も聞いたことのある言葉だったが、改めて本当なのだと思います。
- ・第一志望に合格する人としない人の差は、基礎を大切にしているか、日々の生活の過ごし方、そしてテストや勉強に対する気持ちにあるのだなと思いました。
- ・豊田先生の一言ひとことが自分のことを言われているようでずっと身に染みて感じた。
- ・今の自分がとても甘いということに気づかされた。そして勉強だけでなく、互いに高め合うことのできる友人を持つこと、挫折はくるのでその時に踏ん張ることが重要であるとわかった。
- ・いつも担任から言われているように「成績が上がってから志望校を上げるのではだめ」なのだ改めて思いました。部活で忙しいことを言い訳にして学習時間をとれていなかったけど、毎日時間をきめてコツコツ頑張ろうと思いました。
- ・一番心に残ったのは、頭を丸刈りにして、シャンプーとドライヤーとの時間を削った人の話です。私は、「あと20分だけテレビを観て宿題やろう」といつも思ってしまうけど、その「20分だけ」が勉強に対する気持ちの表れだということを感じました。1分1秒でも惜しまないといけないのだと思いました。
- ・復習を3回もするなんて時間がないと思っていましたが、時間を作るという大切さに気付いたので、携帯を触る時間や食事をする時間が長いので、そこから時間を作ろうと思いました。
- ・これからも時にはやる気がなくなって折れてしまうこともあるかもしれないが、その時こそ頑張ろうという気持ちを持つのだと教えられた。
- ・基礎と1年の後期からの勉強量が大切だということがよくわかったので、学習量を増やしていこうと思う。親に学費を払ってもらっているから勉強できているので、感謝の気持ちを忘れないようにしたい。
- ・高1、高2では、「失敗力(反復練習)、勉強癖をつけることが大切、模試では自己採点をより正確にし、解き直しをするように心がけたい。模試の受験では、志望校の順位にこだわり、志望校は決めておくことも大切だと知った。すき間時間を見つけ時間を作っていきたい。
- ・模試でよい判定をとることよりも、一貫してその大学を受験したいという気持ちの方が大切だと思った。
- ・何かと言い訳ばかりして勉強から逃げてばかりなのでしっかり意志を固め、まず中間テストを頑張ろうと思った。
- ・今の教材をとことん使いきろうと思いました。自分の将来について今よく考えてやりたいことをみつけて大学をしっかりと決めていきたいと思いました。
- ・「1年の2学期まではみんな差がないが、だんだんと差がつく」と聞いて今から勉強時間を増やす習慣をつけないといけないと思いました。
- ・今まで考えもしなかったが、大学はコミュニケーション能力の高い人を求めていることがわかった。コミュニケーションは学校でしか身につかない。だから学校生活を充実させなくてはいけない。「ピラミッドは、頂点からは作れない」という言葉が一番心に残りました。2年生になってから急に上を目指そうと思ってもそのための土台作りがされていなければ、最初の土台作りから始めなくてははいけなくなる。差が付き始める今、踏ん張って頑張りたい。
- ・1年のうちに限界を決めず、高い目標をもち、難関大学を目指したい。2週間後テストなので真剣に取り組み目標をもって臨みたい。模試をもっと大切にしたい。今から変わる。行動に移す。結果を出す。
- ・自分の気持ちを固める一歩として今回の考査で結果を残そうと思った。
- ・授業中にやってはいけなかったり、現代文のテストで、出来るときとできないときがあることだったり、「あ、これ自分のことだ」と思う点が多かった。